

令和7年度 第1回羽島市学校構想推進協議会 会議要旨

日 時	令和7年6月3日（火） 10時00分～11時40分
場 所	羽島市役所本庁舎 4階 第1委員会室
出席者	<p>【委員】 中島会長、中村副会長、高橋委員、石橋委員、炭竈委員</p> <p>【事務局】 森教育長、不破事務局長、小川次長兼教育政策課長、稲葉次長兼同課施設担当課長、 児山次長兼学校教育課長、高木教育政策課課長補佐、服部同課政策係長、豊島同課 専門員</p> <p>【参 観】 今枝教育委員会委員、今井田教育委員会委員</p> <p>【傍 聴】 傍聴者：3名</p>
内 容	<p>1 委嘱書交付 2 開会 3 委員紹介 4 会長・副会長選出（中島会長、中村副会長を選任） 5 議事（議事進行を会長に依頼） 事務局から資料を用いて説明を行う。 （1）協議会の目的等について</p> <p>【会長】 懸案事項等を踏まえて今後の羽島市の教育を考える上で、はじめにどのようなこどもを育てたいか、地域や家庭、学校がどのように子どもたちの学びを支えていくとよいのかという視点が大切である。昨年度受けた答申の具現化に向けて、求められる資質・能力という観点から委員の皆様にご意見いただきたい。</p> <p>【委員】 子どもたちのコミュニケーション力に課題があると感じる。学校教育の中で協働的な学びを通して、コミュニケーション力の育成ができるのではないかと。そのために、適正規模・適正配置を考えていくことも必要である。</p> <p>【委員】 羽島市が大切にしたいと考えている協調性や人とのつながり等、適正規模でないとなかなか育まれない資質・能力があると感じる一方、適正規模を見直すだけでは育まれない資質・能力もある。</p> <p>【委員】 ワーキンググループでこれからの学校のあり方について話し合われていくが、一番大事にしないといけないことは、子どもたちの教育条件が改善されるかどうか。言い換えれば、教育の目標を実現するためにどうすべきかを考えることが重要である。 昨年度受けた答申の具現に向けて、ワーキンググループのメンバーがこどもの具体</p>

的な姿を共通認識する必要がある。例えば、「心豊かに学び合う」とは具体的にどのような姿かを整理していく必要がある。

私が大事だと思う資質・能力はこどもの考える力（エイジェンシー）、自ら行動する力である。自分で考えて良い方向に進んでいく力をこどもたちにもってほしい。それが、地域コミュニティのため、さらには将来の羽島市のためにもなる。

適正規模・適正配置について、現場の先生方の意見も踏まえて分析・検討していくとよい。また、羽島市の強み（土地、交通、文化や歴史等）を活かした教育を考えていくことが重要である。

【会長】

こどもたちの学びを考えると時代に合った資質・能力を議論していかなければならない。今、求められている「社会性や協調性」と20年後に求められる「社会性や協調性」が一致しているかどうかは分からない。その中で、「こうなっていくとよい」というビジョンをもつことは大切である。

また、答申に位置付いている内容で各委員からの意見に関わることとして、「体験的な活動の在り方」「探究的な学びの実現」が挙げられる。実現するためには、各学校の強みや地域性を活かして考えを練ることが必要である。

そこで、「探究的な学び」や「体験活動」に関して、委員の意見はあるか。

【委員】

高校の状況としては、学校の特色（専門性）を活かしたり、地域と繋がったりして課題解決学習を実践している。市内の高校では、羽島市のイタセンパラという淡水魚の保全活動を生徒たちが進めている。こうした活動が、こどもたちの自主性を高め、創造力の向上にも繋がっている。

【会長】

羽島市のこどもの様子や羽島市が目指す教育の内容等で意見はあるか。

【委員】

保護者が一番願うことは、こどもが安心安全に学校に通い、楽しく学校生活を送っていると感じられることである。また、今後こどもの数が減少していく見込みだが、羽島市の魅力を伝えていくことで、保護者が羽島市に住みたいと思えるような場所になっていくのではないか。そのためには、教育委員会だけでなく、市も一緒に関わり考えていけるとよい。

【委員】

幼稚園や保育園では、近年、小規模園がトレンドである。小規模園の方が、保育者と保護者との連携がしやすいため、保護者の安心感につながる。また、こどもにとっても少人数の方が保育者と関わる時間が多くなるため、情緒の安定や自己肯定感が高まる。

【会長】

これまでの意見から、ワーキンググループや推進協議会では、羽島市が目指す教育のあり方や今後の状況を見据えて、どのような規模が適正なのか考えていくことも大事にしていかなければいけない。

事務局から羽島市の現状等の説明があったが、意見や疑問点はないか。

【委員】

各地区によって状況は異なるので、3つのワーキンググループが集まった場でそれぞれの考えを交流するとよいのではないか。

【委員】

P T Aの独自の活動として、北部地区では3つの小学校の6年生と一緒に楽しめる活動を仕組み、中学校入学前からコミュニケーションを図れる場を提供した。地域の状況に合わせてP T Aも工夫した取り組みを考え、子どもたちの安心安全につながるようにしている。

【委員】

適正規模について、小規模校、大規模校それぞれに長所や短所はある。だからこそ、ワーキンググループでは、いろいろな観点から総合的に考える必要がある。

会議前半で話題に上がった「探究的な学び」について、小学校から大学までP B L（問題解決型学習）は行っており、これらの活動を通じて、子どもたちが成長したという事例を聞いたことがある。コミュニケーション能力や問題解決能力等の資質・能力が身に付くという点だけでなく、探究的な学びを通じて、学ぶ意欲や自己肯定感の向上に繋がるという点も、課題解決学習の一つの成果である。

【会長】

探究的な学びは国も推進している。課題を子どもたちが地域の中から見つけ出していくことで地域との繋がりが生まれる。それぞれの地域の特色を取り込みながら、探究的な学びを具体化していくことが中心課題になってくる。さらに、探究が推進できる規模等も検討していかなければならない。

ここまでの議論であったように、義務教育9年間の中で、「子どもたちのどういう能力を伸ばしたいのか」「どういう教育を羽島市として実現したいのか」ということを中心に据えながら、それが実現できる学校のあり方についていろいろな方のご意見を聞きながら合意形成をしていくことが求められる。

(2) 協議会スケジュール（案）について

【会長】

11月～12月に予定している保護者等への意見聴取の時期についてご意見ないか。

【委員】

保護者への意見聴取について、アンケート形式であれば、「情報配信アプリ」を活用することで短期間に意見を集めることができる。

【委員】

アンケートの内容項目や意図によっては時期が変動することも考えられるのではないか。無理のないように調整していくとよい。

【事務局】

アンケートや意見聴取をするまでに、協議会で話し合われている内容（本市の懸案事項等）について、ある程度情報共有をした上で、対象者に回答していただけるような流れにしたいと考えている。また、内容項目についても、現在検討中である。

【委員】

スケジュールについては、今後、事務局とワーキンググループで調整を図りながら適切な時期等を検討していくとよい。

7 閉会